



まじめな努力 = 楽しい時間

担当：大久保 将史

素直な心になりましょう。

素直な心はあなたを

強く正しく聡明にいたします。

この言葉は、松下電器産業株式会社（現パナソニックホールディングス）を一代で築き上げた経営者である松下幸之助さんの言葉です。

松下幸之助さんは和歌山県に生まれ、9歳で丁稚奉公に出されました。当時の大阪市に導入された路面電車に感動して、電気に関わる仕事を志し、16歳で大阪電灯（現関西電力）に入社して7年間勤務します。当時の電球は自宅に直接電線を引く方式で、電球の取り外しも専門知識が必要な危険な作業であったため、簡単に電球を取り外すことができる電球ソケットを在職中に考案して、大阪電灯を依願退職して自宅で電球ソケットの製造販売に着手します。しかし、ソケットの売上は芳しくなかったのですが、その後、アタッチメントプラグや二灯用差し込みプラグがヒットしたため経営が軌道に乗り、事業拡大して松下電気器具製作所を創業して、カンテラ式で取り外し可能な自転車用電池ランプを考案して売上を伸ばし、乾電池などにも手を広げて、1929年に松下電器製作所へと改称しました。一方で1946年にはPHP研究所を設立して倫理教育にも力を注いでいます。PHPとは”Peace and Happiness through Prosperity”の頭文字で「物心両面の調和のある豊かさによって平和と幸福をもたらそう」という意味です。お互いが身も心も豊かになって、平和で幸福な生活を送る方策を、それぞれの知恵と体験を通して提案し考えあう場として月刊誌『PHP』が発刊されています。一度読んでみてはどうでしょうか。

さて、上記の松下幸之助さんの言葉ですが、「素直な心」とは利害や感情、知識や先入観など、あらゆるものにとらわれず、物事をありのままに見る心です。従って素直な心になれば、物事の実相が見えてきます。何をなすべきかということもわかってきます。そこから、なすべきをなし、なすべきでないことをなさない勇気も湧いてきます。さらには、寛容の心、慈悲の心も生まれて、人も物も一切を生かすような行き方が取れるようになる。また、どんな情勢の変化にも柔軟に対応ができ、日に新たな活動を生み出せます。だから、お互いに素直な心の涵養、向上に努めなければならないと松下幸之助さんは説き続けてきました。

『お互い素直な心で何でも吸収できる大きな人間になることができるように頑張ろう』

☆6月（水無月）の行事予定・月訓『誠実』

1	土	第1回実用英語技能検定（一次）	16	日	全商ビジネス計算実務検定・第1回日本漢字能力検定
2	日		17	月	チャレンジ0週・身だしなみ指導
3	月	全校朝礼	18	火	
4	火		19	水	歯科検診予備日
5	水		20	木	身だしなみ指導（再）
6	木	実力診断テスト	21	金	計算技術検定
7	金		22	土	
8	土		23	日	
9	日		24	月	期末試験①
10	月	学年朝礼・聴力検査	25	火	期末試験②
11	火	執行部合同会	26	水	期末試験③
12	水		27	木	期末試験④
13	木	歯科検診・常任委員会	28	金	期末試験⑤ 情報技術検定
14	金		29	土	全国高校野球選手権愛知大会開幕
15	土	受電設備点検（終日停電）	30	日	全商ビジネス文書実務検定

☆コラム 「普通という生活に感謝」

私は、自身の健康維持のため、地元のマラソン大会に参加したことがある。そこで、私より年配である70代の男性ランナーが、自作のTシャツを着て参加しているのを見かけた。そのTシャツには、「健康で走れることに感謝！」との文字が書かれていた。マラソン大会には参加料が必要であり、わざわざ休日に長距離を走らされ、疲れるためにお金を支払うという、人によっては理解できないことかもしれない。しかし、ある程度の年齢を重ねても健康でマラソン大会に参加でき、更に完走できる体力が残っているとすれば、とても幸せなことではないでしょうか。そのランナーは、感謝の気持ちを噛み締めながら、自分自身のペースで、一步一步、前へ前へと走り続けているのだらうと思う。私たちの生活は、技術の急速な進歩により、便利さの追求も目まぐるしく進んでいる。しかし、どれだけ便利な世の中になっても、人々の不満は完全には解消されない。技術革新で勝ち取った便利さも、いつしか普通になり、更に便利な生活を追い求める。人間の欲望は果てしないものである。何か新しいものや特別なものを追い求め、自身の欲求を満たそうとする気持ちも十分理解できるが、ごく普通で当たり前のように思える生活があるからこそ、たまの特別感を味わうことができるのだと思う。普通の生活も、なかなか幸せなことなのかもしれない。